

ランバンサリ通信

2006 No.5 <青銅音曲Ⅷ特別号>
ガムラングループ・ランバンサリ/多聞天
〒105-0013 東京都港区浜松町2-6-8-301
Tel: 03-5425-6137 Fax: 03-5425-6158
URL: <http://www.lambang Sari.com>

🐉 この一年をふりかえる 🐉

本日は、ランバンサリ公演「青銅音曲Ⅷ」にご来場いただきまして、ありがとうございます。この1年もさまざまな演奏の機会に恵まれ、充実した活動を行うことができました。各方面でご尽力をいただきました皆様に、心よりお礼申し上げます。これからも地道に活動を続けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

- | | |
|--------------|---|
| 6月1日 | インドネシア大統領来日歓迎レセプション (インドネシア大使公邸/目黒) |
| 6月4日 | 第22回月ノ夜ノ会「ランランガムラン～初夏の夜の夢」(ランバンサリ・スタジオ) |
| 6月18日 | 常福寺ジャワガムラン・コンサート (常福寺/相模原市) |
| 6月21日 | ジャワガムラン・ライブ (ジュンバタン・メラ赤坂店) |
| 6月28日 | 学校法人捜真学院・捜真小学校ガムラン鑑賞教室 (捜真学院チャペル/横浜市) |
| 7月4日 | 久米良範氏退職記念パーティー (六本木ヒルズ・スカイラウンジ) |
| 7月19日 | ジャワガムラン・ライブ (ジュンバタン・メラ赤坂店) |
| 7月31日 | 百観音献灯会 (百観音明治寺) |
| 8月16日 | 慶福寺まにわ塔「灯籠流し」(慶福寺/埼玉県蓮田市) |
| 8月19日～20日 | 麻布十番祭ガムラン・ライブ (ギャラリー久米/麻布十番) |
| 8月23日 | ジャワガムラン・ライブ (ジュンバタン・メラ赤坂店) |
| 8月25日 | 東京都音楽研修会・ガムラン演奏会 (中央区立晴海中学校) |
| 9月2日 | ガムラン&舞踊鑑賞教室 (埼玉県立芸術総合高校/所沢市) |
| 9月3日 | 洗足学園ガムラン試演会 (洗足学園・前田ホール) |
| 9月19日 | 十六夜コンサート其の四～小島夕季ジャワ舞踊の夕べ (上野水上音楽堂) |
| 9月21日～12月14日 | 秋のガムラン初級講座 (ランバンサリ・スタジオ) |
| 9月27日 | ジャワガムラン・ライブ (ジュンバタン・メラ赤坂店) |
| 10月5日 | ガムラン鑑賞教室 (横浜市立文庫小学校) |
| 10月18日 | ジャワガムラン・ライブ (ジュンバタン・メラ赤坂店) |
| 10月23日 | 第18回多聞天アジア文化講座Live 編「秋のジャワ舞踊祭り」(ランバンサリ・スタジオ) |
| 10月29日 | 日本ワヤン協会公演「プラン・クンバン」(日暮里サニーホール) |
| 11月4日 | ガムラン鑑賞教室 (世田谷区立旭小学校) |
| 11月5日 | Surfin' 10周年記念パーティー (ジュンバタン・メラ赤坂店) |
| 11月6日 | ジャワの花 ジャワの風 vol. II (スタジオ・アマリタ/吉祥寺) |
| 11月8日 | ガムラン鑑賞教室 (八潮市立八幡小学校/埼玉県) |
| 11月11日 | ジャワガムラン・ライブ with Rianto (ジュンバタン・メラ赤坂店) |
| 11月18日 | 親子で楽しむガムラン (東京都立北療育医療センター城北分園) |
| 11月30日 | ガムラン演奏会 (江東区深川子ども家庭支援センター) |
| 12月2日 | ジャワガムラン・ライブ (ジュンバタン・メラ赤坂店) |
| 12月23日 | 多聞天 presents 「柿ちゃんのどす黒い行列のできる芸バー」(ランバンサリ・スタジオ) |
| 1月10日 | 森村学園初等部新春コンサート (森村学園初等部/横浜市) |
| 1月24日 | ジャワガムラン・ライブ (ジュンバタン・メラ赤坂店) |
| 2月18日 | ガムラン・ワークショップ (かつしかシンフォニーヒルズ・アイリスホール) |
| 2月19日 | ジャワの影絵芝居「ワヤン・クリ」(かつしかシンフォニーヒルズ・アイリスホール) |
| 2月22日 | ジャワガムラン・ライブ (ジュンバタン・メラ赤坂店) |
| 3月5日 | ISTA&静岡自然を学ぶ会 交流会～ガムラン・ワークショップ (アイセル静岡) |
| 3月14日 | ジャワガムラン・ライブ (ジュンバタン・メラ赤坂店) |
| 3月25日 | 小島夕季～ジャワの夜 di ムリウイ (Café ムリウイ/祖師谷大蔵) |
| 4月5日～6月28日 | 春のガムラン初級講座 (ランバンサリ・スタジオ) |
| 4月25日 | ジャワガムラン・ライブ (ジュンバタン・メラ赤坂店) |
| 5月4日～7日 | アジア&いわて 元気フェスタ (岩手県産業文化センター) |
| 5月12日 | 第19回多聞天アジア文化講座「Dick Leeの軌跡」講師: 森重行敏 (ランバンサリ・スタジオ) |

※この他、毎月2回日曜ガムラン、毎月1回パティック講座 (講師: 中右絢子) をランバンサリ・スタジオにて開催。

バニユマサンの魅力

木村 佳代

最近、私たちのレパートリーに新たに加わりつつあるものにジャワ島・バニユマス地方に伝わる音楽・バニユマサンがある。きっかけは、今回の「青銅音曲Ⅷ」にも出演する舞踊家リアントさんだ。彼がバニユマス出身ということもあり、彼と一緒にその音楽を練習して以来、一気に虜になってしまった。私たちが普段演奏している中部ジャワの古都ソロのガムランに比べるとその構造は比較的単純だが、何とも言えぬエネルギーとスピード感にあふれ、わくわくするような魅力がある。特に踊りや太鼓のリズムに合わせた掛け声は「どうしちゃったの、この人たち？」という位ノリノリで楽しい。

バニユマス地方は中部ジャワのソロと西ジャワ・スンダ地方の中心地バンドゥンのちょうど真ん中に位置している。そのためか、音楽には両地域の影響が見られる。もともと竹の木琴によるアンサンブル「チャルン」と呼ばれる音楽が庶民の間で発達し、現在に至るまで様々な変化を遂げつつ演奏されている。そう、バニユマサンは庶民の間で親しまれてきた音楽なのだ。その為、歌詞に歌われている内容はごく日常の喜怒哀楽を表したものが多く、時に滑稽で親しみやすい。また生き生きとした男性の掛け声は、元々農民たちの生活の中から生まれたとも言われている。たとえば、田畑で作物を荒らす鳥や虫たちを「ヤー・ヤー・ヤー」と言いながら追い払っていたのが、いつしか音楽の中に取り込まれて掛け声になったというのである。だから、バニユマス地方では一般の人々もバニユマサンを自分たちの音楽として身近に感じることができ、聴衆も演奏家と一緒に掛け声に興じるのだと言う。

このようにごく普通の人たちの間で日々の労働後の癒しとして楽しまれてきたバニユマサンは、その素朴さ、親しみやすさゆえに、外国人である私たちにもダイレクトに響いてくる。更に、バニユマサンを経験したことで、同じジャワガムランでも地域によってこんなに豊かなバリエーションがあるのだということ、そしてあらためてソロの王宮で発達したガムランが、いかに洗練され歴史と共に熟成されてきたかということにも気付かされる。まだまだ私たちはバニユマサンの音楽を始めただけだが、少しずつレパートリーを増やしていき、ガムランの新しい一面を楽しみつつ紹介していければと思っている。

ジャワガムランの不思議な女声の歌

村上 圭子

ジャワガムランの古典曲で、「グンディン・ルバブ」というスタイルの曲を聴いていると、青銅の楽器の響きの中から、不思議な旋律を奏でる胡弓のような楽器「ルバブ」と、「シンデン」と呼ばれる女性歌手の歌が聴こえてくる。(本日のプログラムでは2番目に演奏する「プジョンゴ〜ソブラン」のような曲)ガムランの中でこの二つのパートは、自由なリズムで旋律のようなものを奏で、お互いに寄り添うような形で摩訶不思議な世界を作りあげている。

最初にガムランの演奏を聴いた時、このルバブの音とシンデンの声に衝撃を受けた。ルバブの音は妙にかすれているし、女声の歌は朗々と歌い上げる風でもなく、どちらも上手いんだか下手なんだかよく分からない感じで、むしろこの二つのパートがない方がいい位なのに、とさえ思った。

当時は、ルバブとシンデンの入らない「グンディン・ボナン」(本日のプログラムでは最初に演奏する「グルンドゥン」のような器楽曲)というスタイルの曲の方が馴染みやすく大好きだった。

特に理解に苦しんだのがシンデンの歌の魅力である。しかも歌詞は難しそうなジャワ語で歌われている。もちろん、比較的新しい時代に作られた曲の中には、タイトルも歌詞の意味も分かりやすく、何を表現しているのかははっきりしているものもある。(本日のプログラムでは、「カンデ」「ギンピ」のような曲)しかし、当時初心者だった私にとって、古典曲の中で歌われるシンデンの声は、何だか訳の分からない歌を歌っているようにしか聞こえなかった。

それなのに、ある日ひよんなことから、シンデンのパートを担当することになった。ジャワガムランの女声の歌は、「ガムランの中の楽器の一つ」であると先輩から教わる。歌と楽器の関係が、歌と伴奏というのではなく、声は楽器の一つとして役割を果たしているという。ますます分からなくなった。教わるままに歌詞の読み方を覚え、本場のシンデンが歌っている旋律を聴き取りながら、私のシンデン修業は始まったのである。

演奏会の後に、「先ほどの歌は、何を表現しているのですか」とよく聞かれる。毎回とても答えに困る質問である。ジャワ語で綴られる歌詞には、古い時代の教えを解いたものもあり、暗喩が各所に秘められている。その謎解きには多くの教養とセンスを必要とし、現代のジャワ人でも全ての人が理解できるわけではないような難解な言葉が含まれている。歌詞の意味を一言で説明するのはとても難しく、まるで「ダ・ヴィンチ・コード」のような世界である。

ガムランの中には、「ゲロン」という男声の歌のパートもある。朗々とした旋律を複数の男性歌手が柔らかい声で歌い、ガムランの響きに豊かで穏やかな雰囲気醸し出していく。こちらは拍もあり旋律も分かりやすく、最初聞いた時から歌として親しみを覚えた。曲の中で、ゲロンはいつも歌われるわけではない。ここぞという時に途中から入ってきて、雰囲気を盛り上げ音楽に彩りを添えていく。それにひきかえシンデンは、ルバブの物まねのような旋律を最後まで歌い続ける。そこまでしてどうして歌わなければいけないのか、謎は深まるばかりだった。

ジャワでガムランを聞いている人、演奏している人達を見ていると、シンデンの歌に注意深く耳を傾け、とても楽しんでる風に見える。その楽しみ方が、最近になって私自身も少しずつ分かるようになってきた。ジャワの人々はまず、女性歌手の声の美しさ、声の魅力を楽しむ。同じ旋律や歌詞を歌っても、これほど世界が変わるのかと思うほど、歌手によって全く違う世界ができあがる。渋い味わいの声、お色気たっぷりの声、可愛らしい声、甘えたような声、ハスキーな声、人の好みは十人十色。美声の持ち主が必ずしも一番人気とは限らない。

それに加えてジャワの人々は、シンデンが曲の中でどのような旋律型(チェンコ)を選ぶかということ、大いに注目する。ルバブは、曲の全体的な旋律の進行を主導する役割を担うので、他の楽器よりも少し先に音を示して演奏する。その音に呼応するように、シンデンは他の楽器よりも少し遅れて、ルバブを追従するように旋律型、歌詞をその場で選びながら歌っていく。そこにはちょっとした音の

会話が成り立っている。

ルバブはその時の演奏者によって、曲の解釈や音色、音楽性に個人差があるため、かなり味わいが違って来る。シンデンはそれを即座に感じとり、その時のルバブの奏でる音にふさわしい旋律型を探しながら歌うのである。ジャワの音楽家は、「とにかくシンデンはルバブについて行きなさい」と口を酸っぱくして言う。本物のシンデンというのは、ルバブについて行きさえすれば知らない曲でも歌える、とも言われている。そのためにはもちろん、長い経験と修業を必要とするが。

ガムランの勉強を始めた頃、「声は楽器の一つ」「ガムランは目指す音に向かってジャズのように即興演奏をしているようなものだ」という話を聞いて、イマイチ理解できなかったことが、ようやく少しずつ分かり始めてきた。自分の声が楽器となり、ガムランの音の中でたゆたうように浸ることができたら、どんなに気持ちがいいことだろう。現地の録音を聴いていると、時折ルバブの音なのかシンデンの声なのか分からないほど音が溶け合っていることがある。そんな境地に辿り着くのはいつの日のことだろう。

ジャワには、60歳を過ぎても現役で活躍している長老のシンデンがいる。彼女たちの歌声を聴いていると、人生の年輪から滲み出てくる味わい、曲の解釈の深さを感じることができる。若さと美声を持つ人気歌手にはない持ち味があって、つい引き込まれてしまう。何となくガムランの中から聴こえてくるシンデンの歌声、そこには限りない魅力が秘められていて、とても奥が深いのである。



ランバンサリ&多聞天 NEWS & 今後の活動予定

洗足学園音楽大学 マスターズコンサート 「アジア音楽の愉しみ」～日本とジャワの楽舞～

日時：7月17日(月/祝) 15:00(開場 14:30)

会場：洗足学園 前田ホール
(田園都市線・溝ノ口駅下車徒歩8分)

第1部「日本音楽と上方舞」

演奏：現代邦楽研究所

尺八：山口賢治 三絃：西瀉昭子 箏：野澤佐保子

上方舞：吉村桂充 胡弓：森重行敏 他

第2部「ジャワのガムランと舞踊」

演奏：ランバンサリ

舞踊：小島夕季、サンガール・パムンカス

プログラム：舞踊「ラントヨ」、舞踊「ガンビヨン」
「ラグ」、「ロボン〜キナンティ」

企画・解説：森重行敏

入場料：前売 2,500円/当日 3,000円

学生 1,000円/全席自由

お問い合わせ：洗足学園音楽大学演奏部

Tel 044-856-2981/ensou@senzoku.ac.jp

チケット予約：ランバンサリ事務局

Tel 03-5300-6361(木村) /office@lambang Sari.com

ジュンバタン・メラ赤坂店～ガムラン・ライブ

インドネシア料理店の老舗「ジュンバタン・メラ赤坂店」で、小編成のガムラン・ライブを毎月1回行なっています。ライブの日程は毎月異なりますので、ご来店の際は予めお店にお問い合わせ下さい。楽器に近い席をご希望の方は早

めのご予約をおすすめします。演奏チャージなし、お食事代のみ。

日時：5月26日(金) 20:00～20:30/21:00～21:30

会場：ジュンバタン・メラ赤坂店

地下鉄・赤坂見附駅より徒歩5分

赤坂駅より徒歩7分

http://www.jbm-gr.com/jbm/jbm_aka.html

ご予約・お問い合わせ：ジュンバタン・メラ赤坂店

Tel 03-3588-0794

パティック講座(毎月1回)

インドネシアの代表的な伝統工芸、パティックに挑戦してみませんか。1回だけの参加もOK。マイペースで作品作りに取り組めるのが特徴です。ハンカチなどの身近なものから、日傘、カイン・パンジャンという本格的な一枚布まで、幅広くご指導します。

日時：6月11日(日) 14:00～17:00

会場：ランバンサリ・スタジオ

講師：中右絢子(なかう あやこ)

参加費：3,600円(一般) 3,100円(友の会正会員)

(初回はハンカチ布代が別途必要となります)

用意するもの：エプロン、4Bの鉛筆、洗濯ばさみ4つ。

その他の材料、道具等は先生が準備して下さいます。

お問い合わせ：ランバンサリ事務局

Tel 03-5300-6361(木村) /office@lambang Sari.com

日曜ガムラン(毎月2回)

通称「ミングー」の名で親しまれている日曜ガムラン。どなたでも楽しめるガムラン練習です。初心者大歓迎。1回だけの参加もOK。継続して参加したい人には、さらにオススメです。平日は忙しいけれど日曜日だったら参加できるという方には最適。ジャワガムランの基本曲を、みんな楽しく練習しています。試しに1回参加してみたいかたがでしょう。

日時：5月28日(日) 16:00～18:00

6月4日(日) 16:00～18:00

6月18日(日) 16:00～18:00

7月2日(日) 16:00～18:00

会場：ランバンサリ・スタジオ

参加費：2,000円(1回)

お問い合わせ：ランバンサリ事務局

Tel 03-5300-6361(木村) /office@lambang Sari.com

メール通信会員募集中

ランバンサリ・多聞天の今後の活動予定を掲載した「ランバンサリ通信メール版」を無料で配信しています。ご希望の方は「ランバンサリ通信メール版希望」と書いて、お名前とメールアドレスをこちらまでお知らせ下さい。office@lambang Sari.com(担当：村上)

■お申し込み・お問い合わせ：ランバンサリ事務局■

Tel & Fax: 03-5300-6361(木村)

E-mail: office@lambang Sari.com

講座のお申し込み・公演の予約ご希望の方は、住所、氏名、講座・公演名を明記の上、ハガキ、電話、ファクス、Eメールのいずれかでご連絡下さい。

■ランバンサリ通信 2006年 No.5■

発行：ランバンサリ通信編集部

2006年5月21日発行